

下野市社会教育委員・下野市公民館運営審議会合同会議 議事録（要旨）

- 1 日 時 平成 29 年 10 月 3 日（火） 13 時 30 分～15 時 10 分
- 2 場 所 庁舎 3 階 303 会議室
- 3 出席委員 社会教育委員 委員長 五月女 洪
副委員長 水田 あけみ
委 員 小林 溶子
島田 実
花澤 公久
佐藤 善行
大垣 玉枝
吉田 聡
公民館運営審議会 委員長 永山 登志子
副委員長 小林 溶子
委 員 宮川 長一
中川 賢一
高橋 佳枝
小室 佳子
角田 ヨシ子
兼丸 起子
倉井 綾子
小貫 シゲ子
安土 美智子
- 4 出席職員 教育長 池澤 勤
生涯学習文化課長 近藤 善昭
国分寺公民館長 齋藤 光利
石橋公民館長 山内 隆匡
南河内公民館長 福田 一也
生涯学習推進グループ 大門 啓美
塩濱 弘子
漆原 聡
- 5 議 案
（1）下野市公民館振興計画（案）について
- 6 その他

委員長	あいさつ
委員長	あいさつ
教育長	あいさつ
委員長	議題（１）下野市公民館振興計画（案）について。この活動計画（案）は、7月27日開催したグループ協議での類似意見をまとめたものについて、8月23日開催の社会教育委員会議で協議した結果である。本日は、これについて公民館運営審議会委員より意見を伺う。では、事務局より説明願う。
事務局 委員長	基本目標1の活動計画について、資料に基づき説明 施策目標①公民館事業の充実について、意見はあるか。 まとめて説明をしてから、意見をいただくことにする。
事務局 委員長	基本目標2、3、4の活動計画について、資料に基づき説明 みなさんのご意見をまとめるということになるのかなということ で、3年間という短いスパンの中で具体的にできる活動計画をまとめた が、ここはもう少しこのように考えたほうが良いというようなことをご意 見いただきたい。
委員	活動計画については、文科省から数年前に公民館の整備と・運営の在り 方についてだされたが、その内容が網羅されている。ないのは、相談機能 の充実かと思うがどう考えるか。
事務局	4ページ、「また、各世代が参加・見学にこられるようなプログラムづ くりや運営体制を支援します。」の「支援」がどうかと思う。自主グルー プがするなら支援でもわかるが、プログラムづくりは公民館がすると思 うので支援は違うのではないか。
委員 委員	公民館まつりは実行委員会を立ち上げ開催している。その実行委員会が プログラムづくり等をするので、それを公民館としては支援するというこ とになる。 そうすると、「また、」はつけないほうが良い。 接続詞があるのであれば、「その中で、」や「さらに、」にという言葉は どうか。
副委員長	公民館まつりは実行委員会が開催するのではないか。そうすると「公民 館まつりを開催します。」という部分も考えたほうが良い。
事務局	ただ今のみなさまのご意見をまとめ、次のように修正してもよいのかな と思うものを読み上げてよいか。「自主グループや公民館利用者等が学習 成果の発表の場として、公民館まつりを開催するにあたり、各世代が参 加・見学にこられるようなプログラムや運営体制づくりを支援します。」
委員長	いかがか。 〈異議なし〉
委員	1ページの二つ目、「様々なボランティアの養成を目的とした」とある

委員	<p>が、左側のグループ協議ででた意見に「学校支援ボランティア、地域ボランティア」とある。「様々な」ではなく具体的に「学校支援ボランティア、地域ボランティアなどの」としていただきたい。</p>
委員	<p>6ページの「行政・家庭・地域の活動をネットワーク化するコーディネーターを置きます」に関連してくると思うが、「学校支援ボランティア、地域ボランティア」と限定してしまうと、逆に身動きできなくなるのではないか。</p>
委員	<p>「学校支援ボランティア、地域ボランティアなどの」と「など」としている。できれば力を入れて欲しいという意味でそうしていただきたい。</p>
委員長	<p>コーディネーターの養成と学校支援ボランティアの養成と2つの考え方があがあるが、「学校支援ボランティア、地域ボランティアなど」と狭めたうえで、コーディネーターを養成していかないと、3年間という短い期間の中で、活動が目に見えないだろうという意見である。</p>
副委員長	<p>狭めてしまうとやりにくくなってしまわないか。</p>
委員	<p>「様々な」でよいと思う。</p>
委員	<p>私も「様々な」でよいと思う。ボランティアは学校だけではないので、限定しないほうがよい。</p>
委員	<p>学校支援ボランティア、地域ボランティアだけではなく「などの」とつけてほしい。「様々な」では広すぎる。公民館講座の中で特に力を入れてやってほしいとの意味である。</p>
委員	<p>2つの問題は非常に難しいと思う。館長たちがいるので、どう考えているか伺いたい。</p>
事務局	<p>アプローチが二つある。今までは、自分たちの趣味や関心ごとを自分たちで集まってやっている。それを自分たちがどこかで披露したい。その披露の場を福祉施設や地域であったり、活動を外にむかって開くという考え方のボランティアをつくってきた。今の話では、学校支援ボランティアや地域ボランティアを養成しましょうということである。そのような行政課題があるので養成しましょうというアプローチなら、その振興計画の方針に従い公民館が少し変わる。公民館は両方ともできる。</p>
事務局	<p>生涯学習情報センターで学校支援ボランティアや生涯学習ボランティアを所管して、支援している。公民館は地域密着型という考え方をすれば、自主サークルや活動団体の活動の場として、ボランティアの要素を加えるような講座を開催するとなると、現時点では広い意味でのボランティアのほうがいいのかと思う。</p>
事務局	<p>国分寺公民館では、今年度高齢者に対するボランティア養成講座を開催している。これが地域になると思うが、個人的な考えを話すと、振興計画の活動計画の中では具体的に書かれてしまうと、企画を立てる立場としては、難しくなると考える。一つの考え方としては、この活動計画の中では「様々な」とし、別紙に様々なボランティアの名前を記載するという事も考えられる。</p>
委員	<p>自主グループなどは、既に地域にでてボランティアをしている。私はも</p>

委員長	う一步、公民館として踏みだしてやって欲しいと思う。「様々な」でいいが、地域で子どもたちを育てていくということで、ぜひ、公民館で具体的に学校支援ボランティアなどの養成講座を開催していただきたい。
委員	吉田西小学校は非常に地域と連携がうまくいっている。学校の立場ではどうか。
委員	地域と密着している年齢的に高い職員がいる。その職員が地域と連携を図っているので現在問題はないが、いつまでもいるわけではない。年齢の高い職員がいなくなったときに、地域を知っている職員が何人いるかが問題である。来年度から学校運営協議会を立ち上げ、地域の方の意見を聞きながら運営していくので、コーディネーターを学校としては非常に必要としている。コーディネーターが学校に入っていただけの支援をしていただければ非常にありがたい。
委員長	逆に様々なボランティアを育成しておいたほうが、学校支援につながるのではないかと。
委員	学校が求めているのは、学習支援、遊びの支援、運動の支援など、様々な支援である。
委員	生涯学習情報センターができたときに、学校支援ボランティアとして登録した。また、ボランティアと学校をつなぐコーディネーター養成講座があった。情報センターの役割としてもともとあったので、原点にもどり、公民館には自主グループや活動団体に活躍している人はたくさんいるので、コーディネーターを養成する講座を早急に開催したほうがいいのではないかと。
委員	ボランティアも必要だが、学校と地域をつなぐコーディネーターの存在が必要である。
副委員長	コーディネーター養成講座は何年か前にあり、約 10 人のコーディネーターが養成された。それがうまく機能しなかった。これがうまく機能していれば、もっと早く学校と地域がつながっていたのではないかとと思う。
委員	今までは、学校と公民館は別個になっていたように思う。公民館には自主グループがあり、ボランティア協議会に入っていないと声はかからないのかもしれないが、声をかけていただければ活躍できる人はたくさんいる。
委員	ボランティア連絡協議会に入っている方が、コーディネーターのわけではない。コーディネーターを養成して、コーディネーターが公民館と情報センターと連携して、学校と地域をつなげていけばいいと思う。
委員長	今までの中で、コーディネーターの養成が大事という話がでてきた。また、公民館を拠点として活動できるボランティアを養成していくということで理解いただけたかと思う。
事務局	次に、その他の連絡をお願いする。 社会教育委員に 4 点ほどお知らせがある。1 点目は、次回の社会教育委員会議だが、11 月 7 日（火）午後 1 時 30 分からとなる。場所は本日と同じ 303 会議室となる。2 点目は、社教連会報を本日配付したので、後ほど

ご覧いただきたい。3点目は、明日10月4日栃木県社会教育委員研修会が開催されるが、8名の委員が参加される。よろしく願います。

最後に、第26回とちぎ教育振興大会が開催される。開催案内と一緒に参加申込書を配付した。FAX等で報告していただきたい。

以上で閉会とする。